



勝利の買い方

以前この欄で、メジャーリーグ（MLB）を発祥とする、膨大なプレーデータを統計的に分析することで、選手の「勝利への貢献度」を測定するセイバーメトリクスという分析手法を紹介した。採用する球団、競技も増え選手個人の能力評価の手法としてセイバーメトリクスは市民権を得たようである。

さて、では「セイバーメトリクスで評価の高い選手（以下、本稿では「トップタレント」と呼ぶ）を上から順番に集めると無敵のチームはできるのか？」という疑問が次に浮かぶ。

今回はこの疑問を分析した論文を紹介する¹⁾。この論文では、MLB、ナショナルバスケットボールリーグ（NBA）、およびサッカー代表戦（FIFA主催）について、「トップタレントがチームに占める比率」と「チーム勝率」の関係を分析している。すると、NBAとサッカーでは、

トップタレント比率がある水準に達するまではチーム成績は上昇するが、その水準を超えてトップタレントを集めると逆にチーム成績は悪くなるという関係が明らかになった。この逆転現象を論文では「Too-Much-Talent Effect（タレント過剰効果）」と呼んでいる。バスケットボールを例にとると、タレント過剰のチームでは「アシスト数」や「守備時のリバウンド数」など選手間の連携や献身的なプレーを示す指標が悪化していた。

しかしMLBではトップタレントを集めるほどチーム成績は良くなり、タレント過剰効果は見られなかった。この結果は資金力のある球団が金に糸目をつけずにトップタレントを集めることで「現在の勝利を買う」戦略が有効であることの証明とも言える。

一方で、割高となった「現在の勝利」を諦めて、あえて「将来の勝利」に投資する球団も現れた。長年、中・下位に低迷し、資金力も乏しいヒューストン・アストロズは2011年に一軍の高額選手の大半を解雇し、浮いた資金を「ファームの育成」「分析チームの強化」「ドミニカ共和国への野球学校の新設」という「将来的に最も投資効果がある投資先」に回すという大胆な戦略に打って出た。解雇した選手の穴を埋める補強は行わなかったため、2011年以降チーム成績は周囲の予想通りに悪化し、3年連続100敗以上を喫する記録的に弱いチームとなっている。しかし投資の成果は徐々に実を結びつつあるようだ。2014年にはファームに所属する選手の能力評価で30球団中1位の評価を獲得した。ファーム出身の一軍選手も増えてきている。

現在と未来の「勝利」の価格差というアービトラージはMLBでも成立しそうである。（柏木 亮二）

1) "The Too-Much-Talent Effect" Roderick I. Swaab, et.al, Psychological Science (August 2014)

